

第74回運営推進会議

看護小規模多機能型居宅介護事業所
ケアステーションるぴなす

令和8年3月30日

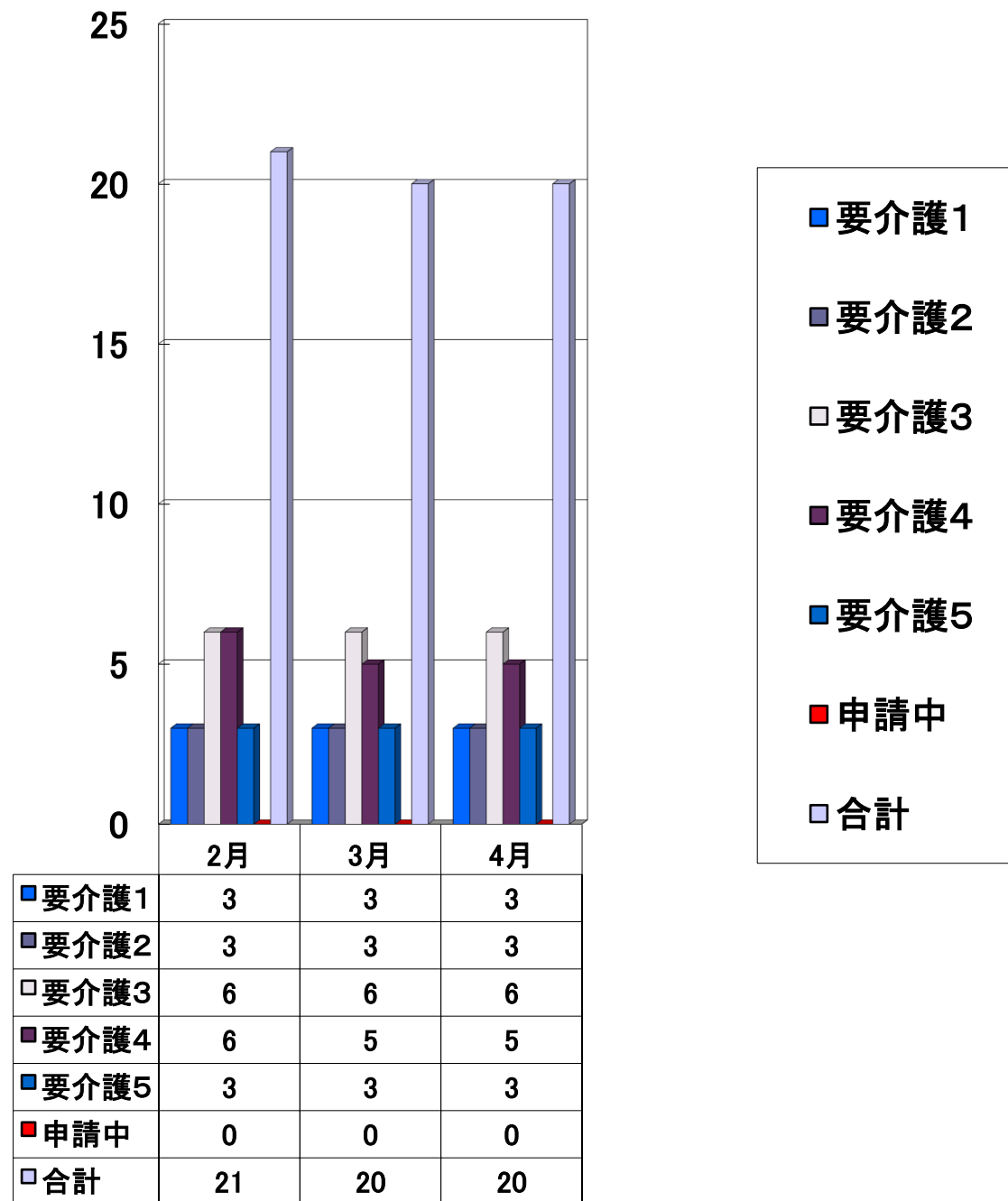
第74回運営推進会議

- るぴなすご利用者現況報告
- 新規ご利用者
- 活動報告
- サービス評価公表
- 意見交換

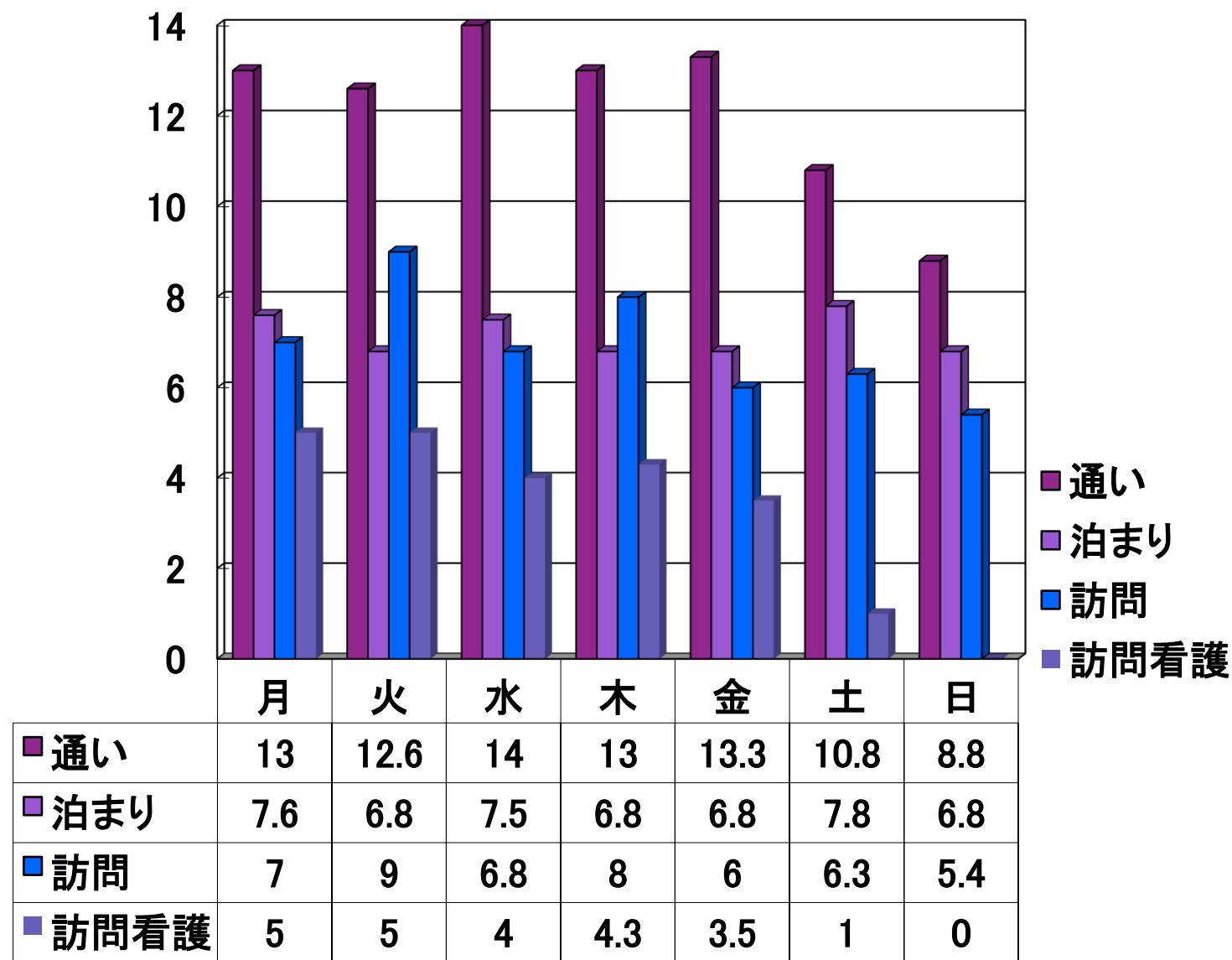


登録利用者数 令和8年2月～令和8年4月

3月
平均介護度 3.1



令和8年3月 曜日別延べ利用者数



参加

子ども：21名

おとな：62名 計83名

みんなの食堂
こども(高校生以下):無料
おとな:100円
限定:50食
(無くなり次第終了)
会場:斎藤内科クリニック
17:00~18:30

今回のMENU
クリーム
シチュー



どちらか一方の
参加・来場歓迎!

3/27(金)

どちらか参加・
来場大歓迎!

年齢、性別は問いません。どなたでもどうぞ!

参加費
500円
飲み物代

よる ちゃ ま
夜の茶の間

予約不要

会場:斎藤内科クリニック 18:30~20:00



主催:ケアステーションるびなす 問い合わせ:025-257-7141

サービス評価

スタッフ個別評価



事業所自己評価



外部評価



評価の公表

- これまでの取り組みやかかわりを自らに向き合い、振り返ります。個人作業

- 各自が取り組んだ「スタッフ個別評価」を持ち寄り、全体で話し合い、それぞれの考えや実践、項目に関する捉え方の違いなどを話し合い、その中から改善の方策を考えます。事業所のコミュニケーションの場ともなります。

- 運営推進会議で話し合います。
「できている」「できていない」という結果のみで判断するだけでなく、事業所が真摯に自らの取り組みを振り返り、質の向上を図っているか確認します。
地域が日頃感じていることと事業者自身が考えることとの違いについて話しあい、事業所の課題や今後の方向を見出します。

- ホームページ掲載 公表

介護現場における生産性向上取組指針より抜粋

後期高齢者人口の増加、要介護（要支援）認定者数も増加し、要介護（要支援）認定率は、令和12年には20%を超えると予測され、介護需要の増加が見込まれている。

2040年の介護需要を満たすためには今後、介護職員を約5,200人増加させることが必要

有効求人倍率（令和5年度）では全職種が1.47倍なのに対し、介護関連職種は4.82倍

運営の課題：「良質な人材の確保が難しい」、「今の介護報酬では人材確保・定着のために十分な賃金を払えない」、「経営（収支）が苦しく、労働条件や労働環境を改善したくてもできない」➡介護人材の確保・定着が喫緊の課題

介護サービスの質は、介護サービスに携わる人の資質に負うところが大いだが、良質な人材の確保が難しい、教育・研修の時間が十分に取れない

今後、介護需要が増大する一方で、介護職員が減少することが見込まれる

「介護現場の生産性向上」は、業務の改善や効率化等を進めることにより、職員の業務負担の軽減、業務の改善や効率化により直接的な介護ケアの業務に充て、介護サービスの質の向上に

介護ロボットや I C T などのテクノロジーを活用

「人手が足りない」、「身体的負担が大きい（腰痛や体力に不安）」、「精神的にきつい」

「介護業界への就職をためらう理由」として 6 割弱の人が「体力的にきつい仕事の多い業界だと思うから」と回答

業務改善により生み出した時間や人手の余裕を、職員の研修実施や O J T などの人材育成に充てることで、職員の資質向上・サービスの向上を図ることも可能となる。

介護記録の電子化など I C T の活用は、日本語に不慣れな外国人職員や介護経験の浅い職員にとって業務のサポートとなり、円滑な就労・定着にもつながるなど、介護人材の裾野を広げる効果も見込める。

介護現場の多くは人材確保や経営上の課題を抱えており、生産性向上に取り組む人的・時間的・経費的余裕がない

介護ロボットや I C T の導入・活用を進める上での課題として、「導入コスト」に次いで、「効果的な活用方法が分からない」

ノウハウ面での課題を指摘する声も多く聞かれる

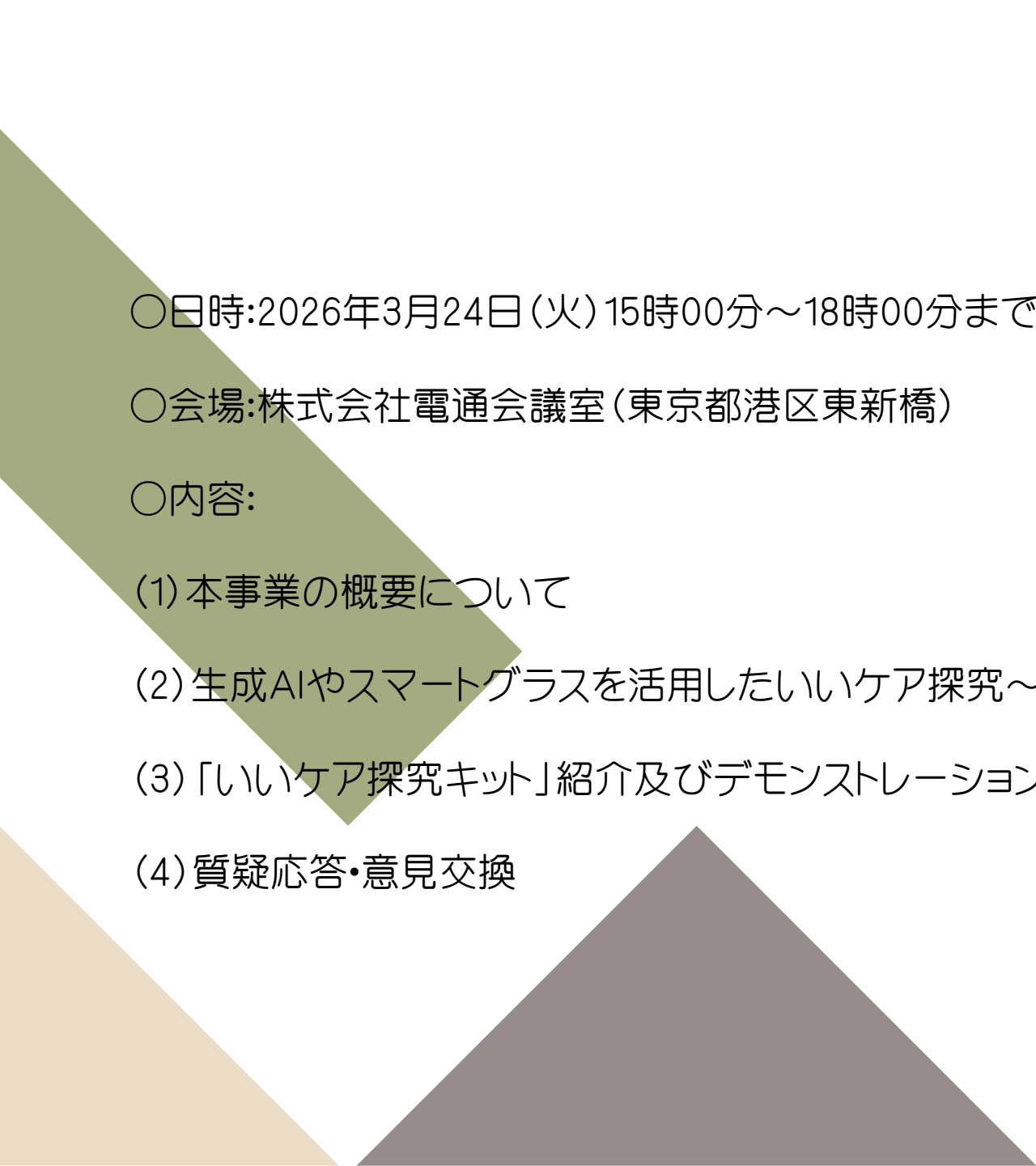
2026年3月24日(火)／東京都港区

日本財団 2025年度 助成事業

「外国人介護人材等の訪問におけるケアの質向上のための生成AIを活用したケアマニュアルの調査研究」報告会

これまでのケアのあり方が従来の「困った人への手助け」から、これからは「より豊かに生きることの支援」へとケアの目的が変化していく中で、何をすることがいいケアなのか、ケアの「言語化」「見える化」は欠かせない。

現場での職人氣質の「真似ること」から脱却し、生成AIを活用し、現場の実践者の言動を言語化することで、従来は伝えることが難しかった利用者のどこを見て何を観察しているのか、そのうえでどのような声かけやかかわりが生まれているかなど、外国人介護人材の育成等を目的とした「いいケアとは何か」について探求するための「いいケア探求キット」の公開と普及を目的に開催する。



○日時:2026年3月24日(火)15時00分～18時00分まで

○会場:株式会社電通会議室(東京都港区東新橋)

○内容:

(1) 本事業の概要について

(2) 生成AIやスマートグラスを活用したいいいケア探究～ケアのまなざし・いいケアを導く14の心得と30の所作～

(3) 「いいケア探究キット」紹介及びデモンストレーション

(4) 質疑応答・意見交換

第74回運営推進会議

看護小規模多機能居宅介護事業所 ケアステーションるびなす

開催日時：令和8年3月30日(月) 17:00～

出席者：高志2丁目自治会長・岩〇様，民生委員・風〇様，地域包括支援センター山潟・小〇様

ご利用者ご家族・石〇様，法人代表・斎藤先生，法人総務・物江

看護小規模管理者・吉井，計画作成担当・中村

1 はじめに

- ・年度末を迎えることが出来ました。これからもよろしくお願いします。

2、利用状況報告

- ・登録利用者数：20名

退院後は直接ご家族のいる県外の施設へ入所が決まっている方がいる。

寒い時期は入院が多かった。その後は動きが無い状況。

- ・通い利用者数：8～14名／日
- ・泊まり利用数：6～9名／日
- ・訪問：5～9名／日...お一人に複数回の訪問あり。
- ・訪問看護：1～5名／日

3、活動報告

- 2月：節分行事...鬼に紙で作った玉を投げて当てた。鬼の格好で写真撮影。
- 3月：ひなまつり...お内裏様とお雛様に扮して記念撮影。
- お誕生会...手作りのケーキを召し上がった。
- つながりの場づくり：3/27(金)みんなの食堂，夜の茶の間

4、サービス評価

- ・評価結果と改善計画の説明
- ・地域包括支援センター，ホームページにて公表

5、介護現場の生産性向上について

- ・業務改善や効率化
- ・人材育成に充てることで、職員の資質向上・サービスの向上を図る
- ・介護ロボットやICTの導入・活用
- ・介護人材の裾野を広げる効果
- ・ケアの言語化、見える化。生成AIの活用。スマートグラス。

6、意見交換

- ・AIを使い文書作成の負担軽減、計画書もできる。修正して完成させると良い。
- ・ケアプラン連携。紙のやり取りからデータでのやり取りへ。国で加算をつけて取り組んでいる。
- ・外国人介護人材に言語化は有効。運転・訪問・言葉の問題がある。

- ・毎日利用中。仕事前後に送り迎えし、入浴もできるようになり自分の時間ができるようになり助かっている。歩くのが大変になっているが、頭が冴えている時もある。災害対策に良いドアチェーン工夫の紹介。錠剤を飲むのが難しくなっている。
- ・一人暮らしで認定受けたい方がいる。物忘れが進んだ方、親子関係が良くなく頼れない方。近くにいても頼れない、迷惑かけたくない、自分でできるうちは住み慣れた所を希望する人が多い。
- ・認定の結果（要支援か要介護）と、目的、何を希望されるかで利用するサービス選択肢が変わる。
- ・高志2丁目の子どもも減っている。高齢化が増々進んでいる。高齢者も子どもも、居場所があると良い。
- ・民生委員と自治会が、役員会や運営推進会議で連携できるので良い。
- ・寒い冬の間、転倒や病気になり、認定受けたい人いた。
- ・特養の空き状況、場所にもよるが、待機者減っている。特養に入所するので小多機の要介護度が下がる、有料老人ホームは満床であっても待機者が増えない。
- ・できるだけ家でという人が多いので、選択できると良い。
- ・るびなすは先生がいるので安心、喜んでいる。提携している先生がいて連絡はできても来れるかはわからない。



ありがとうございました

いつも大変お世話になっております。
今後ともご支援ご協力をお願いします。

ケアステーションるぴなす スタッフ一同